

児童学研究

平成14年3月 第32号

巻頭言

京都女子大学児童学科における15年の“私”の在り方を顧みて……船岡三郎……1

原 著

保育園児の長期追跡研究

—学童期における身体発育・行動発達と保育開始時期の検討— ……佐藤益子……3

服部律子

林 正幸

投影樹木画法におけるトラウマ指標の統合化とそれを巡る2, 3の問題

……大辻隆夫……10

研究報告

幼児の発達指標についての一考察

—運動性を中心に— ……高木徳子……16

河村麻衣子

転移の反治療的機能について……安藤美和子……21

菅田季美

中川美穂子

平野かおり

宮城ゆかり

紹 介

自閉症の障害特性と支援のあり方

—TEACCHに学ぶ— ……田川元康……37

児童学科だより……46

平成12年度 家政学研究科児童学専攻修士論文論題一覧

平成12年度 児童学科卒業研究論文論題一覧

児童学科だより

児童学科公開講座

子どもと親のためのゼミナール (第13回)

2001年7月7日(土) 13:00~17:30

■心の悩みを聴く体験学習 D校舎学生ホール
—カウンセリング実技講座—

大辻 隆夫(本学講師)
石野 泉(本学非常勤講師)

2001年7月8日(日) 9:30~12:00

■親子参加の楽しい子育て教室

第1部	親子でダンス	9:30~10:00	体育館	新矢 博美(本学助教授)
第2部	【子ども組】			
	1. 輪になって踊ろう	10:00~10:30	体育館	新矢 博美(本学助教授)
	2. 造形あそび	10:30~11:45	造形棟	土田 隆生(本学教授)
	【親組】			
	子育てグループの話し合い	10:30~11:45	造形棟	
			コーディネーター	佐藤 益子(本学教授)
			助言者	高木 徳子(本学教授) 村榮喜代子(本学助教授) 衣笠紀玖子(本学講師)

児童文化・児童文学ゼミナール (第42回)

2001年11月10日(土) 13:30~16:30 J525教室

講演

■グリム童話のかくされた魅力	天沼 春樹(グリム翻訳・研究家)
■グリム童話と読者	岡田 純也(本学教授)

2000年度 家政学研究科児童学専攻修士論文 論題一覧

- 1) 周産期ハイリスク児の就学前後における
多動性障害簡易スクリーニングテストの検討 浅野 文子
- 2) 初心カウンセラーの professional identity についての一考察
—自己愛の傷つきによる逆転移を通して— 井上 祐子
- 3) 絵本の題材に関する研究 岡 恵子
- 4) 自己・対象の境界線と自立・相互依存の関係性について 岡田奈美子
- 5) 高機能自閉症者のコミュニケーションについての一考察 —事例Kをとおして— 折笠 美穂
- 6) 周産期リスク児の就学前後における身体発育・行動発達に
関与するリスク因子の解析 金巻 未佐
- 7) 幼児における運動機能の発達の再検討と描画 —健常群と発達障害群との比較— 河村麻衣子
- 8) 中山晋平童謡研究 中村 寿江
- 9) 幼児の言語発達の再検討 —健常群と発達障害群との比較— 縄手 恵子
- 10) 女性の gender identity についての一考察
—母娘の Pre-Oedipal な移行対象関係を通して— 三村 亜矢

2000年度 児童学科卒業研究論文 論題一覧

〈児童心理学〉

(指導 星野 命教授)

- | | |
|---------------------------------------|-------|
| 1) 高校生の「悪い行為」観 | 今井 千鶴 |
| | 小北 雅世 |
| 2) 発達障害児本人の障害自覚度と親の養育態度の変化について | 小原佐知子 |
| 3) 女性における子どもの価値に対する質問紙調査 | 杉浦 愛子 |
| 4) 子どもの記憶に残っている両親の「けなす」行為が現在の性格に与えた結果 | 田中 則子 |
| | 吉田 優子 |
| 5) 学習塾の役割（メリット・デメリット）と学習塾に対する関係者の意識 | 廣井 美絵 |
| 6) 同性2人きょうだい間における感情・意識・行動について | 上村 香織 |
| | 土師 知子 |
| | 吉田 美幸 |
| 7) 幼稚園・保育園環境における色彩利用と効用の調査研究 | 酒井亜希子 |
| 8) 日本語教育の必要な外国人児童生徒受け入れ校における現状と課題 | 田井野幸子 |
| | 水井 加奈 |

(指導 高木徳子教授)

- | | |
|------------------------------|-------|
| 1) 自閉症児K・Kの事例研究 | 石黒 真子 |
| 2) 自閉症児T・Iの事例研究 | 伊吹 千絵 |
| 3) 知的障害児S・Kの事例研究 | 植田由美子 |
| 4) 自閉症児T・Eの事例研究 | 大江 梨恵 |
| 5) 障害者の表現力についての一考察 —創作劇を通して— | 川中理恵子 |
| | 近藤 梓 |
| | 杉村由紀子 |
| | 田中 陽子 |
| 6) 自閉症児K・Kの事例研究 | 棄田 明子 |
| 7) ダウン症児N・Uの事例研究 | 小島 佳子 |
| 8) 自閉症児M・Kの事例研究 | 中村 由子 |
| 9) 自閉症児K・Sの事例研究 | 福岡 寿美 |
| 10) 自閉症児S・Oの事例研究 | 正伯 直子 |

〈児童保健学〉

(指導 佐藤益子教授)

- | | |
|--------------------------------------|-------|
| 1) 保育園児の身体発育および行動発達におよぼす保育開始時期の検討 | 井上喜美子 |
| | 東 優里奈 |
| 2) 周産期ハイリスク児における多動性障害スクリーニングテストの検討 | 宇野 恭子 |
| | 尾花 理沙 |
| | 北野久美子 |
| 3) 胎児性アルコール症候群の豊環境における身体発育及び行動に関する研究 | 長尾 敬子 |
| | 宮久有紀子 |

(指導 衣笠紀玖子講師)

- | | |
|--|----------------------------------|
| 1) 学生の『幼児期に開始するおけいこ事』に対する意識調査
—自身の『幼児期に開始するおけいこ事』経験からみて— | 阿部 純子
原 教子 |
| 2) 子ども虐待の発生を減少させる因子の検討
—養育者と未婚者の虐待意識の比較から— | 釜本真佐子
関谷 朋子
谷 久美子
中本奈緒子 |
| 3) 子どもの間食の摂取状況について
—主として子どもの体型と母親の就労状況からの検討— | 小松原史絵
藤原 桃子
堀田祐理子 |
| 4) 大学生の喫煙の実態 —喫煙に対する意識、人的環境及び健康状態からの検討— | 高木由紀子
中野 貴子 |
| 5) 子育てにおける叱り方、言葉かけについて
—幼少期の実体験が、将来の子育てにどう影響を及ぼすか— | 寺崎 智美
松本 奈苗 |
| 6) 男女のイメージ、就労、結婚および子ども・育児に対する
女性と男性の意識のちがいについて
—きょうだい環境と教育環境からの検討— | 林 真智子 |
| 7) 幼児の朝食摂取状況
—幼児の生活リズムと健康および母親の就労形態からの検討— | 堀川 里織
松塚 敦子 |
| 8) 「女性の生き方を求めて」 —現在の若者と就労に対する意識— | 堀邊 奈穂
本田 幸子
松本 綾子 |
| 9) 家事労働から見る女性の就労 —学童期の子どもを持つ女性からの検討— | 三宅知恵子
木村 祥子 |
| 10) 子どものほめ方・しかり方
—親から受けたほめ方・しかり方が、
将来の子どもへのほめ方・しかり方の意識に及ぼす影響— | 山本明日美
米澤 裕子 |

〈児童文化学〉

(指導 岡田純也教授)

- | | |
|-----------------------------------|-------|
| 1) 手塚治虫漫画の思想 | 石井佑可子 |
| 2) 金子みすゞ詩研究 | 一谷阿貴子 |
| 3) アンドレ・ダーハン作品研究 —別冊 翻訳絵本— | 井上 芳子 |
| 4) ピーターラビットとその作者ビアトリクス・ポターについての考察 | 植田真由実 |
| 5) 京都市における児童館についての考察 | 岡西 理恵 |
| 6) チャールズ・M・シュルツと『PEANUTS』の50年 | 織田 陽子 |
| 7) 絵本「三びきのこぶた」研究 | 川崎 敦子 |

8) 漫画「サザエさん」に関する考察

9) 金子みすゞ童謡研究

10) 着せかえ遊びの歴史的考察

11) 児童の性教育に関する考察

12) 林明子の作品研究

13) 佐野洋子絵本に関する一考察

14) マザーグースわらべ唄考察

15) 岸和田だんじり祭の研究

16) 京都市の都市公園 一主として街区公園を中心に一

17) いもとようこ作品研究

18) レオ・レオニ作品考察 一別冊「Mr. McMouse」翻訳一

19) ルイス・キャロル作品研究 一『アリス』を中心に一

20) いわむらかずおとその作品についての考察 一「14ひきのシリーズ」を中心に一

21) 中原淳一の美の世界

(指導 村榮喜代子助教授)

1) 童画における子どもの描かれ方の変化

2) 「ぞうのバンバール」研究 一理想の家族像について一

3) キューピーに関する研究

4) 「ひとまねこざる」研究

5) 灰谷健次郎作品論

6) 児童文化活動におけるキャンプファイヤー

7) お手玉遊びに関する一考察 一調査を通して一

8) マーシャ・ブラウン作品研究

9) ジョン・バーニンガム作品研究

10) 「戦争絵本」研究

11) バージニア・リー・バートの作品研究

12) 自然遊びの研究

13) ディズニーアニメーションに関する研究 一ヒロインを中心に一

14) クレイアニメーションの特徴 一自作「ひまわり」を通して一

15) 鬼の児童文化的考察 一絵本を通して一

16) 伝承玩具に関する考察 一メンコの調査を通して一

17) NHK「みんなのうた」研究 一1960年代を中心に一

18) 赤羽末吉絵本論 一昔話絵本を中心に一

19) 壺井栄の児童文学作品研究 一家族との関わりを通して一

20) 「サザエさん」研究

21) 『子供之友』研究 一『子供之友』の教育観一

22) 玩具の本質についての一考察 一調査を中心に一

小杉 典子

久保 祥恵

下河 訓子

黒瀬 舞

齊藤真由美

阪田 佳子

西川真由子

柴原 恵

下野 彰子

須々木佳代

中井美和子

田中美由紀

長谷川和代

森尾友美子

東 歩美

増田 佳奈

松浦 千絵

宮本 真弓

平 美衣子

岩井奈奈子

江岸 晶代

押切 紀子

笠野 朋子

粕谷 由貴

佐久川範子

佐藤真知子

佐野友佳子

澤 陽子

下田真貴子

杉浦 美絵

高野 菜津

竹内 美帆

津和野歩佳

西田とも子

西山 恵子

野田 明子

宮本やすこ

宮脇こころ

村田 容子

森本真紀子

大和 由佳

23) 地蔵盆に関する一考察 —聞き取り調査を中心に—

山本菜穂子

〈児童教育学〉

(指導 船岡三郎教授)

- | | |
|---|-------------------------|
| 1) 幼児期に受けた虐待がその子どものパーソナリティーに与える影響について
—ある2人の男性の事例を通して— | 尾方 由佳
下原 友紀 |
| 2) 遊戯療法における臨床像に関する一考察 | 尾山 千春 |
| 3) 少年犯罪における心的メカニズムとその力動性について
—西鉄バスジャック事件を通して— | 梶 圭子
若林 麻子 |
| 4) 愛情飢餓感が引き起こす非行現象、その解決策についての一考察
—ある保護観察所の事例を通して— | 川口 文美
中田 里子 |
| 5) 人間の人格形成のあるプロセス
—過教育・過干渉・過期待を受けた人のカウンセリングの事例を通して— | 榊原 温子
土井奈緒子 |
| 6) 神戸連続児童殺傷事件における少年Aの人格形成に与えた
母親の嫉の影響について | 高橋 陽子
徳田佑梨子 |
| 7) 強迫性障害について —ある少女の事例をもとにして— | 谷原 玲子
垂水 聖子 |
| 8) 愛情飢餓感と愛の過要求について —ある中学生の少女Cの事例を通して— | 谷村 美幸 |
| 9) カウンセリングにおける人格の変化の過程についての一考察
—愛を求める衝動を中心に— | 西山 知里
水船 綾子 |
| 10) James, Mann の12回法によるブリーフセラピーのプロセス及び効果について | 袴田 文 |
| 11) 母親と娘における心理的葛藤 —自立と依存の観点から— | 平田由希子 |
| 12) 一被虐待児に関する事例研究 —虐待のプロセス及び心の障害のプロセス— | 武藤 桃子 |
| 13) 教師の養育態度に対する“いじめ”と攻撃性および劣等感
—筆者の観察と体験による— | 田上 沙綾 |
| 14) カウンセリングにおけるパーソナリティーの変化について
—Mさんの事例を通して— | 野村 恭子 |
| (指導 大辻隆夫講師) | |
| 1) 現代の大学生におけるジェンダー意識について | 青木 みか
大崎 祐子
原田万祐子 |
| 2) 長子に対する意識が妹のパーソナリティー形成に及ぼす影響
—高校生女子を対象として— | 青野 麻紀 |
| 3) 二人きょうだいにおける出生順位と性格特性の関連について | 阿部 真弓 |
| 4) 発達段階における母親の職業経験の有無と
大学生の就職観・家庭観に関する一考察 | 石川 恵理 |

- | | |
|---|----------------------------------|
| 5) 幼児期における両親の夫婦関係が子どもの性格形成に及ぼす影響について | 蝶野 浩子
中田早由美
岩破 三紗
三木かおり |
| 6) イヌバラ訓練法による初心者の訓練効果に関する一研究
—投影樹木画法を利用して— | 数永 友香
中村 祐子 |
| 7) 投影樹木画法における教示法の違いに関する実験的研究 —大学生を対象に— | 柴田 愛
南 尚子 |
| 8) 友人関係におけるお互いの性格に対する知覚とその一致傾向について | 西川 摩耶
畑中 智子 |
| 9) カウンセリングの効果
—グループ・カウンセリングにおける人格の成長的变化— | 市来 由 |

＜投 稿 規 定＞

1. 本誌の投稿資格は、京都女子大学家政学部児童学科所属の教職員および編集委員会が必要と認めたものとする。
2. 本誌は児童学の諸領域に関する原著論文、綜説、評論、研究報告、情報、紹介、書評、および児童学科の諸活動に関するニュース、その他などを掲載する。
3. 原著論文は未公開のものに限る。
4. 一論文の長さは、原則として400字詰原稿用紙50枚までとする(図表も含む)。ただし、編集委員がとくに必要と認めたものはこの限りではない。
5. 印刷に際しては、原則として無料であるが、とくに費用を要するものには著者が負担しなければならない場合がある。
6. 執筆要領：
 - (1)原稿は、横書きを原則とし、当用漢字、新かなづかい、算用数字を用いる。外国語はすべてタイプで打つ。
 - (2)外国の人名・地名は、原語を用いる。その他の外国語には、なるべく訳語をつける。
 - (3)図表・グラフには原則として欧文のタイトルをつける。
 - (4)参考文献は、本文の終りに原則として、著者の姓を基準にA, B, C順に配列する。同一著者では年次順とし、さらに同年の場合は、1968a, 1968b, のように区別する。
文献の書き方は以下の例示のようにする。

〔雑 誌〕

- 1 Biederman J, Steingard R (1989) Attention-Deficit Hyperactivity Disorder in Adolescents. *Psychiatric Annals* 19: 587-596.
- 2 佐藤益子, 水田隆三 (1986) 低出生体重児の行動発達—学童期におけるソフトサイン— 児童学研究 16: 3-13.

〔単行本〕

- 3 Touwen BCL, Pechtl HFR (1970) The neurological examination of the child with minor

nervous dysfunction. Clinics in Developmental Medicine 38: London, Spastics International Med. Publ..

- 4 寺道由晃 (1986) 日常生活指導, 三河春樹(編); ぜんそく児療養の手引き: 東京, 金原出版, 15-48.

〈注〉 機関誌は巻, 号, 頁の順とする。単行本は著書名, 出版地, 出版社, 引用頁とする。機関誌名は, 著名なものに限り略記してもよい。

(5)本文中に参考文献を引用した場合は, 原則として著者名・出版年号のみを記載すること。

(6)論文には, 欧文の表題, 著者名, 所属を必ず添附する。

(7)原著論文には, 原則としてタイプ用紙2枚以内の欧文抄録をつけること。

7. 執筆者に対しては, 当該論文を単位として, 別冊30部を無料で贈呈する。それ以上の希望がある場合には, その実費を負担しなければならない。

8. 原稿の採否は本誌編集委員会によって決定する。

9. 原稿は, 京都女子大学家政学部児童学科「児童学研究」編集係宛にとどけるものとする。

〈本誌刊行規定〉

1. 本誌「児童学研究」は、京都女子大学家政学部児童学科の研究活動、およびそれに関連する諸情報を公報することを目的として刊行される学術研究機関誌である。
2. 本誌の刊行は、原則として当該年度に一冊とし、年度に関係なく通しナンバーをもって表示する。
3. 本誌は、児童学科関係教職員および学外の児童学関係者に配布される非売品である。
4. 編集委員会は、児童学科教室会議を構成する教員メンバーによって組織され、その代表者（以下、編集責任者という）は、当該年度の児童学科図書委員をもってこれにあてる。
5. 本誌の刊行責任者は、当該年度の児童学科主任とする。

〈編集後記〉

発行が少し遅れましたが、児童学研究32号をお届けします。

巻頭言は、この3月をもってご退職されます船岡三郎教授よりいただきました。先生はカウンセラーとしても50年の経験と聞いております。また、ご在職15年間に本学科に、カウンセリングを定着された熱意ある教育は、現代社会が求める優れた人材として、多くの卒業生を送り出すことが出来ました。今後、どう継承発展させていくか、私たちに課せられた責任ある課題です。

今号は、原著論文2編、研究報告2編に加え今年後より就任されました、田川元康教授のTEACCHプログラムの紹介をご寄稿いただきました。

読者諸氏のご投稿をお待ちいたしております。また、掲載論文等に対しての、ご意見ご感想等もいただければありがたいです。その際には、連絡先など明記していただきたくよろしくお願いいたします。

(村榮喜代子記)

児童学研究 第32号 (非売品)

平成14年3月26日印刷
平成14年3月30日発行

編集責任者：村 榮 喜代子
刊行代表者：高 木 徳 子
発行所：〒605-8501

京都市東山区今熊野北日吉町35

京都女子大学
家政学部児童学科

TEL：(075)531-7135～7137・7260

印刷所：株式会社 昭英社
TEL. (075)351-1811 FAX. (075)365-0113

Archives of Paidology in Kyoto Women's University

March 2002 No. 32

CONTENTS

Preface

- My Edacational Life in the Paidology of Kyoto Women's University
..... Saburo Funaoka 1

Original Article

- A Comparative Study on the Growth and Behavioral Development of the
School-age Day-nursery Children in the Age of Entry in the Nursery
..... Masuko Sato 3
Ritsuko Hattori
Masayuki Hayashi

- Integration of Trauma Indicators and Some Problems in the Projective Tree
Drawing Technique..... Takao Otsuji10

Minor Article

- A consideration of the Deveropmental scale Noriko Takagi16
Maiko Kawamura

- Anti-therapeutic Function of the Transference Miwako Aso21
Kimi Sugata
Mihoko Nakagawa
Kaori Hirano
Yukari Miyagi

Introduction

- "TEACCH program" Motoyasu Tagawa37

- Announcements46

Published by Dept. of Paidology, Faculty of
Domestic Science, Kyoto Women's University, Kyoto, Japan

Representative: Noriko Takagi

Editor : Kiyoko Murae